



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
ツムぐ学生

第50号

2017年8月23日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.29

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

集中しない子を「ひきつける」SPさん



小学生ですから、全員が集中して学習し続けるのは難しいことです。集中力が切れたり、飽きてしまったり、他のことに興味が向いたりすることは多くあります。現場でもいくらでもあります。そういうとき、現場の先生は、瞬時に判断し、そのときに最善と思う方法で対応します。対応方法は様々です。たくさんの引き出しを持っています。そして、対応して集中できたら「立派だね」と短くほめて、すっと学習にもどっていきます。小さな一場面ですが、SPさんが現場に出たら、最も多く遭遇する場面です。



教育の世界は、エレガントな場面ばかりではありません。うまくいかないこと、思い通りにいかないことのほうが、断然多いです。そういうことを、現場に出る前に経験できるということは、SPさんにとって「宝の経験」です。(でも、これが宝の経験であるということは、数年後にならないと分からないとは思いますが…)



SPさんを見ていると、集中できなくなった子どもへの対応が「素晴らしい」です。それぞれ、その場面では必死なのでしょうが、本当に全力で関わってくれて、「なんとかしたい」、「こちらに引きつけたい」という真摯な思いが伝わります。「いい勉強されているなあ」「きっといい先生になるだろうなあ」と思いながら、お任せしています。叱るのも多くの引き出しのうちの一つなのですが、叱る以外の方法を多くのSPさんはとっています。我慢強く声をかけたり、ときには距離をおいてみたり、話題を変えたり、「ここまでがんばったら休憩ね」などゴールを示したり…。小さな一つ一つの所作が、SPさんを大きく成長させています。そんな関わりをしてもらえる子どもたちは、幸せです。